

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：13401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K04217

研究課題名(和文) 学習者の言語活動を支える教師のインターベンションの効果に関する実践的・実証的研究

研究課題名(英文) Research on Effect of Teachers' Intervention to support Students' Language Activities

研究代表者

大和 真希子 (Yamato, Makiko)

福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門(教員養成)・准教授

研究者番号：60555879

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、授業での教師の介入(インターベンション)の言語・非言語的效果の類型を示すだけでなく、学習者の生活経験と抽象的な概念を結ぶ効果や、学力向上に課題を抱えた児童・生徒に学習規律を獲得させ、学習意欲、他者意識の醸成を促す効果をもつことを明らかにすることができた。また、学習課題・ゴール、介入の意図、状況の見とりとの関係を抽出した。最終的に、児童の参加率の多寡を児童の既習事項を深く掘り起こすチャンスと判断した教師は、学習者の生活体験と結びつける介入を行い、学習者同士に高い協働性を保証しながら、授業をかれらの認識の深化・変容を促す機会と捉えていたことが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：In this study, we not only show the types of verbal / nonverbal effects of teachers' intervention in elementary schools and junior high schools, but also teachers' intervention have the effect of connecting the learner's experience and abstract concepts. And we clarified teachers' intervention have the effect that students gain learning discipline and encourage motivation for learning and fostering consciousness to others.

We also extracted relationships between teachers' intervention learning tasks and goals, teachers' intentions of intervention, and immediate evaluation of students' activities. For example, teachers who judged the students' participation as a chance to deeply excavate the students' prerequisite, link student's living experience and pre-existing content and they also the connect opinions of individuals and support students' collaboration. Furthermore, the teachers think the lesson as opportunities to promote students' recognition through these intervention.

研究分野：教師教育

キーワード：教師のインターベンション 教師の見とり 学習者の言語活動 学習者の変容 教師の認識

1. 研究開始当初の背景

現在、学校現場ではアクティブかつディープラーニングが重視されている。この動きは児童・生徒の思考と認識を言語化する機会を保証し、学習者が教室で他者と共に学ぶ効果を高めるものだが、極めて重要となるのは、学習者の主体的・協働的な活動を支え、促す教師の役割である。こうした役割を松友(2008)は、生徒の意欲を誘発する「ファシリテーター」、活動の質を高める「コーチング」、学習を意味づける「インタープリター」と整理した。効果的な教師の関わり方についてはまた、教師の「リヴォイシング」が話し合いに参加する児童の聴き合いを促進し、学習者の協働性を維持することが実証された(一柳 2009)。また、児童の発言を教材読解の契機と捉えた教師の即興的思考が児童の発言をつなげ、児童の肯定的な変容を捉えた教師の視点が、他者の意見を引用した児童の発言を賞賛するリヴォイシングの発露となることも明らかとなった(一柳 2014)。より遡れば、学び合う授業に必要な教師の談話方略(尾之上ら 2011)、授業中のアーギュメント場面での教師のリヴォイシングの効果을「明確化」「再解釈化」「再定式化」に見出した研究(高垣ら 2006)、教師の非言語行動が期待感情を伝えるツールとなり学習者の意欲を左右すること(古城 1982, 蘭・内田 2005)等、研究成果は豊富である。

これに対して研究代表者らは、リヴォイシングに限らず、学習者の発話や読解力を育成する即時的な教師の言語・非言語的介入(インターベンション)の類型化(松友・大和 2013)や、それを支える教師の「見取り」を抽出した(松友・大和 2014)。だがこれらも授業中の「教師と学習者」「学習者相互」という限定された対話場面で学習者の反応や姿勢の変容から介入の効果が結論づけられ、教師の関わりがどのような状況判断に支え

られているのか明らかにされていない。これに対して本研究は、教師の介入の効果をより包括的な視点から抽出し、それらが教師の属性や授業・生徒観とどう関わるのかを明らかにしようと試みた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、小学校における授業観察を通して、学習者の言語活動の質を向上させるために必要な教師のインターベンション(介入)の条件とその効果を明らかにすることである。そのために調査対象となる小学校での授業場面において、教師の言語・非言語コミュニケーションに着眼し、それらの働きかけを受けた学習者の言語活動がどのように変容したのかを分析し、類型化する。さらには、収集した結果をもとに、教師の効果的なインターベンションを支える状況の見とりや、授業観との関連も分析する。これらの結果をもとに本研究では、インターベンションの質を向上させるための現職研修プログラムを開発することを目指した。

3. 研究の方法

本研究では、基礎調査として、平成 27 年度中に小・中学校で授業データを収集し、効果的な介入場面を抽出し、学習者への作用を詳細に分析することを通して、多様なインターベンションの効果を類型化する。並行して、分析対象となった教師の担当教科、教職歴、学習者の学力への理解、授業観等をインタビューで明らかにし、実際の介入との関係を明らかにする。さらには、(1)インターベンションと見取りの質向上を目指した研修プログラム、(2)インターベンション技術の向上を目指した授業カンファレンスを実施し、免許更新講習や学校支援、その他各種研修の機会において実際に研修を行いながら、その効果に

ついて検証を加える。

4. 研究成果

平成27年度は、福井市A小学校と永平寺町B小学校において、教師の介入(インターベンション)場面を集積し、言語・非言語的効果の類型を示した。とくに構文力や論理的な発話が必要な高学年では、B小学校の授業を集中的に分析し、論理的な整合性を求める介入や教科書の中の登場人物の心情をイメージさせる介入の効果を抽出できた。平成28年度は、教師のインターベンションと学校種、対象教師の教職歴・担当教科、児童・生徒への認識との関連を分析したと同時に、地域特性や学習者の生活環境が異なる状況をふまえるため、対象校に大阪府のC・D小学校、E中学校を加えた。学力向上に課題を抱えたこれら3校の低学年では、学習規律を獲得するための姿勢の維持、学習への参加意欲、他者意識の醸成を促す教師の介入が極めて重要となること、中学校では生徒に論理性を意識させ、理解を促す介入の効果を見出した。平成29年度は、前年度までの事例から教師3名のカンファレンスを集中的に行い、授業中のインターベンションと学習課題・ゴール、介入の意図、状況の見とりや判断との関係を分析した。児童の参加率の低下を見とった教師は、児童の既習事項を掘り起こすチャンスと判断し、学習者の生活体験と結びつけたり、学習者個々の考えをつなぎ、高い協働性を通してかれらの認識の深化・変容を促すことを重視する「授業観」を持つことが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

大和真希子・松友一雄「教師のインターベ

ンションを支える『見取り』と『解釈』に関する研究 小学校国語科の授業分析を通して」福井大学教育・人文社会系部門紀要 pp.225-242 2017年 査読無

大和真希子「教員免許状更新講習」(第4部第4章「現職教育」第6節)『教師教育ハンドブック』日本教師教育学会編 pp.310-313 2017年 査読無

松友一雄「国語科の授業作りと評価を考える - 教師の見取りとインターベンション」『公開講座ブックレット 5 国語の授業作りと評価を考える』全国大学国語教育学会編 pp.69-80 2016年 査読無

松友一雄『国語科授業における教師の「見取り」とインターベンション: 効果的なインターベンションを生み出す即時的評価』、『国語教育研究 56号』広島大学教育学部国語教育学会、pp.86-95 2015年 査読無

大和真希子、松友一雄「小学校高学年の読解力を育成するための教師の『見とり』とインターベンションに関する研究」『福井大学初等教育研究』第1号 pp.1-9 2015年 査読無

[学会発表](計4件)

岩田康之・大和真希子・山口晶子・早坂めぐみ「『開放制』原則下の実践的教師教育プログラムの運営に関する研究(3) - 課程認定大学における実習指導の運営体制に着目して - 」日本教育学会第75回研究大会(北海道大学)2016年

大和真希子・松友一雄「教師の授業観・学力観とインターベンションの相関性に関する研究」日本教師教育学会第26回研究大会(帝京大学)2016年

大和真希子・松友一雄「授業における教師のインターベンションを支える『見とり』に関する研究」日本教師教育学会第 25 回研究大会 2015 年

岩田康之・大和真希子・早坂めぐみ「『開放制』原則下の実践的教師教育プログラムの運営に関する研究(2) - 実習指導体制と実習生の意識に着目して - 」日本教育学会第 74 回研究大会(お茶の水女子大学)2015 年

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

大和 真希子 (Yamato Makiko)

福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門(教員養成)・准教授

研究者番号：60555879

(2)研究分担者

松友 一雄 (Matsutomo Kazuo)

福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門(教員養成)・教授

研究者番号：90324136

(3)研究協力者()